



JSBMR Newsletter No. 11

日本骨代謝学会／The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 <http://jsbmr.umin.jp>

第 26 回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期： 2008 年 10 月 29 日(水)～10 月 31 日(金)
会 場： 大阪国際会議場
会 長： 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
生体情報内科学分野 教授 松本 俊夫
参加費： 12,000 円(大学院生 5,000 円・・・学生証の提示が必要です)
* 第 10 回日本骨粗鬆症学会と両方参加の場合(10/29～
11/2 迄 5 日間を通じての参加)は、16,000 円です。
ホームページ：<http://www.convention.co.jp/jsbmr26/index.html>

※ 詳細はプログラム抄録集をご覧ください。多数のご参加をお待ちしております。

～～～～～ 2008 年度の各賞が決定しました ～～～～～

7 月に行われた選考委員会・理事会において、2008 年度の各賞が下記のように決定いたしました。

【学会賞】 該当者なし

【学術賞】

- <基礎系> 今村 健志 ((財)癌研究会癌研究所生化学部)
- <内科臨床系> 安倍 正博 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報内科学)
- <外科・歯科臨床系> 橋本 淳 (大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学)

【研究奨励賞】

- <基礎系> 片桐 岳信 (埼玉医科大学ゲノム医学研究センター)
- 竹田 秀 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脊髄脊椎再生治療学)
- <外科・歯科臨床系> 緒方 直史 (東京大学医学部ティッシュエンジニアリング部骨軟骨再生医療学講座)
- 斎藤 充 (東京慈恵会医科大学整形外科)
- 妻木 範行 (大阪大学大学院医学系研究科骨・軟骨形成制御学)

【優秀演題賞】

- <基礎系> 矢野 文子 (東京大学医学部ティッシュ・エンジニアリング部)
- <臨床系> 木村 浩明 (京都大学医学部整形外科)
- 中村 正樹 (東京大学医学部整形外科)
- 永瀬 雄一 (東京大学医学部整形外科)

【JBMM 論文賞】 安藤 渉 (大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学)

※10 月 30 日(木)14 時 15 分より、総会に引き続いて授賞式、受賞講演が執り行われる予定です。

2007～2008 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2007 年 8 月～2008 年 3 月末)

■2007 年度 第 3 回理事会議事録■

日 時: 2007 年 12 月 21 日(金) 14:00～16:00

会 場: 千里ライフサイエンスセンター 6 階 603 会議室

議 事:

2007 年度第 2 回理事会議事録(案)の承認(松本理事長)

2007 年 7 月 21 日に開催された 2007 年度第 1 回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。

<報告事項>

1. 庶務報告(野田理事)

野田理事より 2007 年 11 月 30 日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、現賛助会員一覧の提示があった。また、年会費 5 年以上未納者のリストの提示があり、関係の滞納者に納入を促す旨、確認した。

2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より 2007 年 11 月 30 日現在の会計中間報告があり、承認した。特別会計では、第 25 回学術集会より剰余金の寄付があった旨報告があった。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、2007 年 11 月 16 日(木)に開催された委員会にてまとめられた若手シンポジウム企画(案)について提示があり、内容について承認した。また、学術集会において基礎と臨床の入門的、教育講座を企画してはどうかとの提案があり、承認した。松本理事長より、第 26 回学術集会において、同様の企画をランチョンセミナー終了後の時間帯に試験的に開催する旨検討しているとの報告があり、実施される際には参加者へアンケートをとり、好評であれば次年度以降の学術集会にも積極的に取り入れる旨、確認した。

2) JBMM 編集委員会(清野委員長)

清野編集委員長より、JBMM の編集状況について主に以下の報告があった。

- ・2007 年度 12 月 14 日時点での投稿数は 229 編であり、(内訳は却下 105 編、採択 94 編、審査中 30 編)昨年より投稿率が 5 割増加した。
- ・投稿論文の国別内訳は、国内 32.3%に対し、国外 67.7%と海外からの投稿が増加している。
- ・投稿数の増加に対して、査読者の負担を軽減するため、査読者を増やす予定である。

野田理事より、査読者に意欲のある若手研究者を登用してはどうかとの提案があり、了承した。

3) 国際渉外委員会(米田委員長)

米田委員長より、本理事会開催直前に委員会を開催した旨報告があった。主な報告事項は以下のとおり。

・2009 年 3 月 21 日～25 日にシドニーで開催される IBMS への JSBMR からの若手研究者派遣を促すため、2006 年度と同様 Travel Award 基金を設立する。ただし、2008 年度は、基金募集の時期と学術集会の寄付集めの時期が重なることから、特別会計より、500 万円ほど予算立てする。

・2008 年 5 月 16 日～17 日に開催される韓国内分泌学会について本会へ演者推薦の依頼が届き、福本誠二先生(東京大学)、竹田秀先生(東京医科歯科大学)の 2 名を推薦する。

・2008 年 2 月 16～17 日に開催される韓国骨粗鬆症学会(KSO)について本会へ講演者推薦の依頼が届き、鄭雄一先生(東京大学)、山口朗先生(東京医科歯科大学)の 2 名を推薦する。

野田理事より、2013 年の IBMS 学術大会の日本開催について打診を受けた旨、報告があった。協議の結果、日本開催は 1983 年以来的の実施となるためぜひ引き受けてはどうかとの意見が多数あり、正式に受諾する旨、承認した。また、松本理事長より、大会長に IBMS 理事である野田理事を推薦したい旨の提案があり、全会一致にて承認した。

4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、前体制の委員会活動についてほぼ終了している旨の報告があった。また、新たな活動内容として主に以下の提案があり、了承した。

- ・骨粗鬆症疾患について、骨粗鬆症学会と合同でシンポジウムなどの企画を開催する。
- ・骨粗鬆症以外の疾患について(骨軟化症、低カルシウム、歯科/口腔外科関連、小児の低ビタミン D 血症他)をとりあげ、診断と治療指針やガイドラインを策定する。

5) 骨密度基準値設定委員会(福永委員長)

福永委員長より、10 月 7 日に第 6 回委員会を開催した旨の報告があり、全国から収集したデータ解析結果、および性別、部位別、機種別の YAM と年代別の収集データの提示があった。また、データの取扱いおよび今後の作業について合わせて報告があり、了承した。なお、今回の解析結果については JBMM に掲載することとした。

6) 広報委員会(萩野委員長)

萩野委員長より、以下の広報委員を選出し、主にホームページ改訂および Newsletter についてメール通じて意見交換を中心とした活動の報告があり、了承した。

池田 恭治(国立長寿医療センター老年病研究部)

市村 正一(杏林大学医学部整形外科)

伊東 昌子(長崎大学医学部・歯学部附属病院放射線科)

桐山 健(諫早そよかぜクリニック)

また、2007 年度第 2 回理事会にて受諾した第 81 回日本整形外科学会学術総会での骨代謝学会特別ポスター展示について、過去の学術賞受賞者の中で整形外科会員の受賞研究を

中心に作成する旨の提案があり、承認した。なお、JBMM の投稿を促すため、本英文誌の紹介についても同ポスターへ掲載することとした。

4. 会計処理に関する内規の制定について(事務局)

事務局より、平成 20 年度科研費申請よりすべての学術刊行物において出版社の一般競争入札が義務付けされたこと、ならびに経理管理事務及び監査体制について審査対象となった旨の報告があり、内規(案)を理事各位へメール上にて審議依頼を行った旨、報告があった。

5. 学会誌掲載論文の転載許可について(松本理事長)

松本理事長より 2007 年度第 2 回理事会終了後に依頼のあった転載依頼「原発性骨粗鬆症の診断基準」の 4 件および骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2006 年度版「英訳ダイジェスト版」における「ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン」の図版転載依頼について報告があり、承認した。

<審議事項>

1. 新評議員の推薦について(松本理事長)

松本理事長より、同理事長、米田理事より安倍正博徳島大学准教授の推薦、および野田理事、黒澤評議員より石島旨章順天堂大学助教の推薦のあった旨報告があり、全会一致で承認した。

2. 第 14 回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)後の骨代謝サテライトシンポジウムの開催について(松本理事長)

(社)日本内分泌学会の中尾一和理事長より、2010 年 3 月 27 日(土)～30 日(火)に開催される第 14 回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)の翌日の 3 月 31 日(水)に骨代謝サテライトシンポジウムを開催してほしい旨の依頼があった旨、松本理事長より報告があった。協議の結果、受諾することとし、内分泌学会との連携および関西での開催を考慮のうえ、大菌理事が担当することとした。

3. 学会サポーター制度について(松本理事長)

松本理事長より、賛助企業の 1 社より学会サポーター制度、モニター制度、およびフェロシップ制度などの会員獲得戦略について提案のあった旨報告があり、あり方委員会にて具体的に検討することとした。

4. 出版社の競争入札制度について(事務局)

事務局より、平成 20 年度科研費申請にもとづき、出版社の競争入札を行う旨の報告があり、スケジュール(案)および入札関連書類一式の提示があった。協議の結果、同スケジュール(案)および入札関連書類一式を承認した。

■2007 年度 第 4 回理事会議事録■

日 時: 2008 年 3 月 29 日(土) 14:00～16:00

会 場: 東京国際フォーラム 5 階 G504 会議室

議 事:

2007 年度第 3 回理事会議事録(案)の承認(松本理事長)

2007 年 12 月 21 日に開催された 2007 年度第 3 回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。

<報告事項>

1. 庶務報告(野田理事)

野田理事より 2008 年 2 月 29 日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、現賛助会員一覧の提示があった。また、須田立雄名誉会員が、2007 年 12 月 12 日付にて日本学士院会員に選出された旨報告があり、本日開催される就任祝賀会へ、祝電および御花を手配した旨、報告があった。

2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より 2008 年 2 月 29 日現在の会計中間報告があり、承認した。また、2007 年度末の決算予測について、報告があり、会費収入が減少しているが、目立った支出が発生していないため、大幅な赤字は避けられる見通しである旨、報告があった。

3. 各種委員会報告

1)あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、若手シンポジウム企画最終案の提示があり、了承した。松本理事長より、第 26 回学術集会にて「Meet the Expert Session」と題したセッションを企画し、基礎、臨床の各入門的な講座を開催予定である旨、報告があった。

2)JBMM 編集委員会(清野編集委員長)

清野編集委員長より、JBMM の編集状況について主に以下の報告があった。

- ・2007 年度 12 月 31 日時点での投稿数は 242 編であり、オンライン査読システム導入により、投稿数が増加している。
- ・却下率は、2006 年度 52.3%に対し、2007 年度は 47.5%と同程度で推移している。
- ・投稿論文の増加に対応するため、査読者の負担を軽減するため、Editorial Board を増やす予定である。
- ・2007 年度インパクトファクターは 1.468 であった。
- ・インパクトファクターを上げるため、理事各位へ学術集会特別講演者など著名な研究者の投稿を促してほしい。

清野編集委員長より、奨励賞受賞者について、これまで JBMM 投稿を義務付けしていたが、雑誌の水準を高めるため、廃止してはどうかとの提案があり、承認した。また、雑誌に多数のデータを掲載できないために、Web 上で補足掲載できる Supplemental data システムについて紹介があり、ページ数を一定に決め、急なコストアップの回避に繋がることから、利用することとした。具体的な Supplemental data への Figure および Table の掲載数については、今後編集委員会で検討していくこととした。

3) 国際渉外委員会(米田委員長)

米田委員長より、本理事会直前に委員会を開催した旨報告があった。主な報告事項は以下のとおり。

- 2008年2月16～17日にインチョンにて開催された韓国骨粗鬆症学会(KSO)について、本大会より鄭雄一先生(東京大学)、山口朗先生(東京医科歯科大学)の2名を派遣し、同委員長が座長を務めた。同大会では、須田立雄名誉会員が基調講演を行い、折茂肇名誉会員が骨粗鬆症ガイドラインについての講演を行った。
- 韓国内分泌学会が2008年5月16日～17日にソウルで開催される予定であり、小守寿文先生(長崎大学)、竹田秀先生(東京医科歯科大学)の2名を派遣する予定である。
- 香港骨粗鬆症学会より、Asian Federation of Osteoporosis Societies を結成の通知および参画の呼びかけがあったが、応じないこととした。

米田委員長より、IBMS 2013 に向けて、アジアにおける日本の主導権を確保するため、IBMS の下部組織の形で、Asian Societies of Bone and Mineral Research を立ち上げてはどうかとの提案があり、了承した。具体的には IBMS 2009 において Asian Session の企画が予定されていることから、日本、韓国、シンガポール、中国、台湾、タイ、インド等へ参画の呼びかけを行う予定である旨、説明があった。

4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、下記の委員会について活動予定である旨、報告があった。

- 血清 25D 基準値の設定検討委員会・・・松本理事長、岡崎評議員他

なお、骨粗鬆症学会と合同で立ち上げることとなったビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死に対する検討委員会について協議した結果、米田理事を中心として活動する旨、了承した。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(太田監事)

太田監事より、2000 年度版の妥当性の検証作業を終え、論文を JBMM へ掲載する予定である旨、報告があった。また、中村委員長より、今後 short version の作成については、骨粗鬆症学会と共同で進めていく予定であったが、従来通り骨代謝学会の活動とし、委員長を遠藤担当理事に交替したい旨の申し出があり、承認した。

6) 骨密度基準値設定委員会(太田監事)

太田監事より、現在データ収集作業を終え、YAM 値は10年前と殆ど差異のない結果であったこと、および福永委員長と曾根委員を中心に論文を執筆中である旨、報告があった。

7) 広報委員会(萩野委員長)

萩野委員長より、第 81 回日本整形外科学会学術総会で発表する骨代謝学会特別ポスター原稿について提示があり、了承した。なお、現在、学会ホームページの一般の方向けのサイトについて原稿執筆を進めている旨、報告があった。山口副理事長より、メール配信をより活性化させるため、メールアドレス登録者を増やすよう努力してはどうかとの提案があり、未登録者のみ個別に郵送にて依頼することとした。松本理事長より、学会ホームページに企業のバナー掲載欄を設置し、広告費として寄付の窓口を作ってはどうかとの提案があり、了承した。

4. 第 28 回日本骨代謝学会準備状況について(太田第 28 回会長)

太田第 28 回会長より、開催時期は 6～7 月とし、第 26 回、27 回学術集会の企画をふまえ、検討していく旨、報告があった。

5. 学会誌掲載論文の転載許可について(松本理事長)

松本理事長より 2007 年度第 3 回理事会終了後に依頼のあった転載依頼「原発性骨粗鬆症の診断基準」4 件および「ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン」1 件について報告があり、承認した。

6. IBMS BoneKEy について(松本理事長)

松本理事長より IBMS の骨代謝に関する論文の専門サイト(BoneKEy)について紹介があり、了承した。

< 審議事項 >

1. 2008 年度各賞応募・選考スケジュールについて (松本理事長)

松本理事長より、学会賞、学術賞、研究奨励賞、優秀演題賞(旧奨励賞)および JBMM 論文賞の応募・選考スケジュールについて提案があり、了承した。

2. 学術賞・研究奨励賞・優秀演題賞選考委員選出について(松本理事長)

松本理事長より、標記の件について従来通り、理事会出席者で構成してはどうかとの提案があり、了承した。

3. 2008 年度事業計画について(松本理事長)

松本理事長より、2008 年度事業計画(案)について報告があり、了承した。

4. 骨粗鬆症学会との合同企画について(松本理事長)

松本理事長より、第 26 回学術集会和第 10 回日本骨粗鬆症学会との合同企画について、日程は 10 月 31 日(金)の午前 9 時～12 時とした旨、報告があり、以下の企画案について承認した。

第 1 部:骨粗鬆症治療に関連するガイドラインについて討議するシンポジウム

第 2 部:韓国骨代謝学会(KBMS)、韓国骨粗鬆症学会(KSO)、日本骨粗鬆症学会、および日本骨代謝学会の 4 学会合同シンポジウム(4 学会より 1 名以上の演者を選出、1 名あたり 20 分程度の発表)

5. 第 14 回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)後の骨代謝サテライトシンポジウムについて(大菌理事)

大菌理事より、標記シンポジウム開催に向けて、大阪近辺の 300 名規模の会場を検討している旨、報告があった。第 14 回国際内分泌学会(ICE 2010)より助成金の拠出が無い場合、講演者の招聘について審議した結果、ICE 2010 のプログラムが確定した段階で、本大会プログラムの講演者を中心に演者を選出してはどうかとの提案があり、了承した。

6. IBMS 2013 開催について(松本理事長)

野田理事より、IBMS 2013 の日本開催について IBMS 理事会でもほぼ了承を得た旨、報告があった。松本理事長より、2003 年の開催時と同様、国内の学術集会和併催にしてはどうかとの提案があり、承認した。

7. IOF の CNS メンバー推薦について(松本理事長)

松本理事長より、IOF の委員会の一つである Committee of National Societies (CNS) について、中村利孝先生が骨代謝学会からの代表委員であったが、退任することとなったため後任を選出してほしい旨の依頼があった旨、報告があった。協議した結果、宗圓理事の推薦があり、全会一致にて承認した。

8. 公益法人の制度改革について(松本理事長)

松本理事長より、公益法人の制度改革による制度規定および、公益社団法人取得のための手続き等について報告があった。新制度移行後の法人化について協議した結果、現状の規模や運営体制を考慮し、当面は任意団体として継続する旨、確認した。

■各種委員会■

<第22回 JBMM 編集委員会>

日時: 2008年3月29日(土)13:00~14:00
場所: 東京国際フォーラム G504号室

清野佳紀委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

1. 報告事項

1. 発行準備状況

26(2)を3月に予定どおり発行した。掲載論文は26(5)までほぼ決定している。

2007年1月1日~12月31日までで242編の投稿があった。editorial manager の導入により、投稿数が増加している。

2. 投稿状況

3月12日現在、投稿数 51編 昨年比100%

2007年1月1日~12月31日投稿数242編 (うち115編reject、47.5%)

3. 奨励賞および学術賞受賞論文について

山口徹先生(2007年度学術賞)、江尻貞一先生(2004年度学術賞)より投稿があった。

4. インパクトファクターについて

2007年度は、1.468(2006年発表 1.464)となっており、Supplement 発行による影響は予想より少なかった。

5. 電子査読について

清野編集委員長より、電子査読に関する問題点について報告があり、主に以下のとおり確認した。

- “Invited Review”は、採択を前提としてエディター自身が審査する。

- マイナー改訂を要求した後は、それ以降の審査では「却下」や「major revision」とすることは避ける

- Associate Editor へのコメントが日本語になっている場合は、レフェリーへ連絡して英文コメントを送ってもらうよう依頼する。ただし、著者が日本人の場合、レフェリー査読時に日本語のコメントを添付書類にて送付することが可能である。

- 2回目の審査時は、1回目と同じレフェリーに審査を依頼する。

- レフェリー審査の遅滞については、都度、事務局より Associate Editor へ連絡する。

6. Supplemental data について

清野佳紀編集委員長より、雑誌に多数のデータを掲載できないために、Web 上で補足掲載できるシステムについて紹介があった。協議の結果、シュプリンガー社に装備があることや、ペ

ージ数の削減につながることから、利用することとし、具体的な Figure および Table の掲載数については今後検討していくこととした。

7. オンラインファーストについて

掲載論文が確定ごとに Web に掲載するオンラインファーストの導入について協議した結果、紙媒体の発行時期がばらばらになることや、レイアウトが柔軟に変更できないこと、掲載論文の管理が複雑になること等から、当面は見送ることとした。

8. シュプリンガー・ジャパンとの契約書について

シュプリンガー・ジャパン社との契約書見直しについて、現在は1号あたり84ページの契約となっているが、発行ページ数が増加の契約にあるため、発行費の見直しを予定している旨、報告があった。

9. その他

- 杉本利嗣委員より、Editorial Board に山口徹氏(島根大学医学部内科学講座内科学第一)の推薦があり、承認した。

- 松本俊夫理事長より、投稿数の増加に伴い、却下率は5割前後を保持しているため、却下になる論文数も少なくない現状を考慮し、奨励賞の Review については、投稿の義務付けを外してはどうかとの提案があり、承認した。

- 松本俊夫理事長より、Review を継続的に掲載するため、Associate Editor は、1名につき Review 執筆担当1名を依頼することとし、Associate Editor の間で毎号ごとに交代で担当を決めてはどうかとの提案があり、前向きに検討することとした。

<第23回 JBMM 編集委員会>

日時: 2008年7月21日(月)13:00~14:00

場所: 千里ライフサイエンスセンタービル 601号室

清野佳紀委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

1. 発行準備状況

26(4)を7月に予定どおり発行した。27巻以降掲載論文は37論文が決定している。

順調であるが、掲載頁が多すぎてコストがかかっている。

2. 投稿状況

2008年1月1日~7月8日までに131編の投稿があった。海外からの投稿が85編、国内からの投稿が46編である。前年同期が132編で、ほぼ同じ割合の投稿であるが、よりジャーナルの質を高めるためにも、多少却下率を上げることを申し合わせた。

2007年1月1日~12月31日投稿数 242編 (うち117編reject、48.3%)

現在は76編が審査中である。

3. 奨励賞受賞論文について

原田大輔先生(2004年度奨励賞)より投稿があった。

4. インパクトファクターについて

2008年度発表インパクトファクターは、1.425であった。(2007年:1.468、2006年:1.464)

5. シュプリンガー・ジャパンとの覚書について

年間発行ページ契約:覚書を締結するにあたり、シュプリンガー・ジャパン社と交渉した結果、超過ページカウント開始を従来の年間504ページから524ページにするという回答を得た。

年間 30 万円程度の値引きとなる。あわせて、昨年から今年にかけて用紙代原価が 25%ほど値上がりしたが、さらに大幅な値上がりとなるまで相談しないでおくとの話をいただいている。

6. 制作方法をオンラインファーストへ変更する件

電子査読を 2007 年に導入し、投稿論文が著しく増加した。それにより、掲載論文も増加している。できるだけ早く論文を掲載し待ち時間を短縮するため、電子出版であるオンラインファーストを導入することを清野委員長が提案し、編集委員会で審議し、導入することを決定した。

○オンラインファーストについて:

- ・論文ごとに出版するという方法であり、下記のとおりの特徴がある。
- ・一論文ごとに 48 時間以内に校正することを出版社より依頼される。

デメリット: レイアウトが決まっており、柔軟でない。自動組版に対応したレイアウトや体裁に統一されるので、校正は主に論文の内容についての校正になる。また、個々の論文が早期電子出版された以降は、各論文を号にまとめる際も含めて、変更ができなくなる。

メリット: ウェブ上で早く掲載できる。著者が望んでいる論文の公開が早くでき、引用も早くなり、インパクト指数が上昇する。契約頁数では掲載しきれないほどの論文が採択されており、ウェブ掲載をすれば、紙媒体の発行が遅れても著者が納得する。

7. Instruction for Authors改訂:現状に合わせて下記へ変更することを討議の上、決定した。

2.Review Articles:

"The requirements for review articles also apply to mini reviews, except that mini reviews should be within four printed pages including the elements described above."

Editorial Manager Requirements:

システム要件変更時に Editorial manager より通知がなく、シュプリンガー社で気づくことが遅れる。それに対応するため、Editorial manager で対応できるシステム要件の最新情報を、Editorial Manager Help で参照していただくように投稿規程を下記のとおり改訂したい。

Please use the Help option to see the most recently updated system requirements.

- ・Electronic files of the manuscript text. ・Electronic files of the manuscript figures and illustrations.
- ・<http://www.editorialmanager.com/jbmm/>

8. JBMM 論文賞選考

討議の結果、会則第 17 条により、短期間で引用回数が多く、内容が優れた論文であり、著者が日本骨代謝学会会員である論文を選び、理事会へ推薦することを決めた。

9. その他

- ・現在登録しているレフェリーを Associate editor が確認するためにリストを作成することとする。
- ・審査論文と関連している論文から検索して、海外研究者へ審査を依頼する方法が大菌委員より紹介された。

<第 1 回 BP 関連顎骨壊死検討委員会>

日 時: 平成 20 年 5 月 19 日(月) 18 時~20 時 10 分

場 所: 新大阪ワシントンホテル 23F

各委員の自己紹介の後、米田委員長が挨拶され、議事を開始した。

1. 本委員会名について

「BP 関連顎骨壊死検討委員会」が原案通り承認された。

2. 本委員会委員について

以下の委員が原案通り承認された。また、進行状況に応じて若干の委員の追加がある旨の説明があった。

・日本骨粗鬆症学会代表

太田博明先生、宗圓 聰先生、浦出雅裕先生、豊澤 悟先生

・日本骨代謝学会代表

杉本利嗣先生、高橋俊二先生、萩野 浩先生、米田俊之先生

・オブザーバー

中村利孝先生(日本骨粗鬆症学会理事長)

松本俊夫先生(日本骨代謝学会理事長)

・日本骨粗鬆症学会事務局

古賀 肇氏

・日本骨代謝学会事務局

中倉佳奈子氏

3. 本委員会の担当および議事録について

第1回の本委員会は骨粗鬆症学会、第 2 回は骨代謝学会が担当することとなった。その後の本委員会開催にあたっては、各学会理事長の話し合いにより、持ち回りで担当する学会を決め、議事録は両学会の会報に掲載することが承認された。

4. 本委員会の成果について

本委員会の成果は、骨粗鬆症学会と骨代謝学会の共同で発表することが承認された。また、成果物は、1)パンフレット配布、2)JBMM に英文掲載、3)販売するなどの提案がなされた。

5. 他学会・団体等との関係について

本件に関しては、他学会・団体の活動がみられるが、当面は骨粗鬆症学会と骨代謝学会の両学会主体で検討を進めることが承認された。

・日本口腔外科学会監修:資料「ビスホスホネート系薬剤と顎骨壊死」、

・日本歯科医師会・ビスホスホネート系薬剤投与患者への歯科治療対応検討会監修:Q&A「ビスホスホネート(BP)系薬剤投与患者への対応」

・日本学術会議病態系歯学分科会主催:市民公開シンポジウム「ビスホスホネート治療による顎骨壊死の現状」

6. 本委員会の目的について

1) 米田委員長から説明があり、本委員会では、ビスホスホネート系薬剤関連顎骨壊死について、①診断基準の統一、②文献のレビューによる事実確認、③画像による非侵襲的診断、④臨床的対応、⑤発症メカニズムの解明、⑥医療経済的背景を考慮した対応を目的とすることが提案された。

2) 短期的目標としては、学術的により深めた日本の実情に見

合うガイドラインの年内策定を目指し、一般開業歯科医向けにもアレンジしたものを作成したいとの説明があった。

- 3) 長期的目標としては、前向き試験を行って統計学的にも証拠水準を高めたいとの説明があり、使用抗生物質の検討(米国血液学会にて既発表)などの前向き試験の実施計画に関して議論がなされた。
7. ビスホスホネート(BP)系薬剤関連顎骨壊死に関する諸問題について
 - 1) 米田委員長から、診断基準の曖昧さについて説明があり、①臨床像、②画像検査(パノラマX線, CT, MRI)、③病理検査(顎骨摘出標本、生検)、④血液検査(CTX, NTX, TRACP-5b)、④細菌検査(放線菌)などの各検査の有用性と方法論について議論や提案がなされた。
また、長管骨壊死とは異なり、顎骨壊死では骨髄炎を伴うことから、顎骨の特殊性を明らかにすることの重要性が指摘された。
 - 2) 臨床・生化学的予知指標について、上記検査の中から、画像検査(パノラマ X 線, CT, MRI)と血液検査(CTX, NTX, TRACP-5b)について予知指標としての有効性について議論がなされた。
 - 3) 米田委員長から、BP 治療に対する考え方について、BP 処方側(整形外科、婦人科、内科、癌治療医、薬剤師)と歯科医側で温度差があるのと説明があった。そこで、BP 処方側と歯科医側の相互理解のため、BP 処方側は BP 治療の必要性を、歯科医側は口腔および顎骨の特殊性を明確にすることが提案され、次回に検討することが決定された。
8. 本委員会の開催予定など
米田委員長より、次回は7月、その後は2ヶ月に1回の割合で開催する予定であるとの説明があった。

<第2回 BP 関連顎骨壊死検討委員会>

日時:平成20年7月28日(月) 15時~17時
場所:千里ライフサイエンスセンター G602号室

前回の議事録を確認後、議事を開始した。

1. 日本版ガイドライン草案について
 - 1) 米田委員長より、BP 関連顎骨壊死の最新知見に加えて、BP を処方する医師側と歯科医師側の相互理解のため、BP 治療の必要性とそのリスクの説明を盛り込んだ日本版ガイドライン草案の提示があった。
 - 2) さらに、米田委員長より、本草案について以下の検討を加えたいとの報告があった。
 - ・BP 関連顎骨壊死の定義や診断基準を明確にするためにも、BP 関連顎骨壊死のマクロ画像を提示する。
 - ・BP 関連顎骨壊死の X 線画像データを盛り込む。
 - ・BP の治療方針や治療段階について具体的な指針を示す。
 - 3) 本草案と他団体等の発行物との関係や整合性について議論がなされた。

4) 次回の委員会開催日までに各委員が各担当箇所について追加・修正作業を継続する旨を確認した。

2. 日本歯周病学会の参画について
本委員会に日本歯周病学会が参画する必要性が説明され了承された。続いて、米田委員長から、日本歯周病学会から本委員会に永田俊彦教授(徳島大学大学院ヘルスサイエンス研究部・歯周歯内治療学分野)を推薦したい旨の提案があり、承認された。
3. 画像診断エキスパートの参画について
ガイドライン作成にあたり、画像診断エキスパートの参画する必要性が議論され、承認された。委員の人選については今後の検討事項となり、同時に候補者の推薦依頼があった。
4. Perspective Study の可能性について
Perspective Study の様々なモデルの可能性が議論され、乳癌の骨転移患者で BP 投与症例を対象とした検討が可能ではないかとの見解を得た。
5. その他
次回の委員会開催は、日本骨代謝学会事務局担当で、10月29日(水)19時30分~21時に大阪国際会議場で行うこととなった。

<広報委員会委員一覧>

- ・委員長
萩野 浩 (鳥取大学医学部保健学科)
- ・委員
池田 恭治 (国立長寿医療センター老年病研究部)
市村 正一 (杏林大学医学部整形外科)
伊東 昌子 (長崎大学医学部・歯学部附属病院放射線科)
岡崎 亮 (帝京大学ちば総合医療センター内分泌代謝内科)
桐山 健 (諫早そよかぜクリニック)
田中 弘之 (岡山済生会総合病院診療部)
波多 賢二 (大阪大学歯学部生化学講座)

今後の学会予定

●第27回日本骨代謝学会

会期:2009年7月23日(木)~25日(土)
会場:大阪国際会議場
会長:米田俊之(大阪大学大学院歯学研究科口腔免疫制御学講座生化学教室)

関連学会の大会開催予定

●第11回癌と骨病変研究会

会期:2008年11月28日(土)
会場:癌研有明病院 吉田講堂・セミナー室
(東京都江東区有明 3-10-6)
代表:松本 俊夫(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報内科学)
研究会 URL: <http://www.sec-information.net/jscbd/index.html>

●The 2008 IOF World Congress on Osteoporosis

Date: December 3-7, 2008

Venue: the Queen Sirikit National Convention Center
(Bangkok, Thailand)

Submission deadline: June 2, 2008

Congress President : Pierre D. Delmas (France)

Homepage URL:

<http://www.iofbonehealth.org/wco/2008/homepage.html>

●The 2nd Joint Meeting of the International Bone & Mineral Society and the Australian and New Zealand Bone and Mineral Society

Date: March 21-25, 2009

Venue: The Sydney Convention and Exhibition Centre (SCEC)
(Sydney, Australia)

Submission deadline: December 12, 2008

Homepage URL: <http://www.ibms2009.com/index.php>

IBMS への入会のご案内

The International Bone and Mineral Society (IBMS)は世界64カ国に会員約2,500名を有する世界最大規模の骨代謝分野の国際

学会です。IBMS は日本骨代謝学会、European Calcified Tissue Society (ECTS) および The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR)と2年に1度 Joint Meeting を開催し、各地域における研究の発展に尽力しています。

2003年6月には日本骨代謝学会との初めての Joint Meeting が大阪で開催されました。今後もより一層 IBMS との関係をより深めつつ、相互の会員の利益になるため会員の皆様には、ぜひ IBMS へ入会くださいますよう、ご案内申し上げます。

詳しい情報ならびにお申込につきましては、IBMS ホームページ <http://www.ibmsonline.org/membership> のページより、ご査収ください。

日本骨代謝学会は、運動器の10年日本委員会に加盟しています。



「運動器の10年」世界運動

メールアドレスご登録のお願い

本会では、会員様へのご連絡などをより円滑に行うため、メールアドレスのご登録を呼びかけたいしております。メールアドレスを事務局宛て、下記の要項にて、FAXまたはメールにてお知らせください。

ご登録いただいた方へは、ニュースレターや、その他国際骨代謝学会の情報など、メールにていち早くご提供させていただきます。ご協力のほど、何卒よろしく願いいたします。

メールアドレスご登録 送信先: (FAX) 075-468-8773

○ご芳名 :

○ご登録メールアドレス :

*なお、個人情報保護に関する関係法令に基づき、本会はずすでにお預かりしている住所などの情報と同様、メールアドレスにおきましても、学会の活動や運営上必要な事務連絡以外の目的で使用することはありません。

